



6月10日の空襲で全壊した舟島小学校校舎。前列左から4人目が櫻井富次郎先生。(高等科第3学年卒業記念写真 昭和14年)
(写真提供：倉田親子さん)

霞ヶ浦(その19) 6月10日阿見空襲2

6月10日の空襲による犠牲者は374名に及びましたが、その中には青宿地区住民7名、立ノ越地区住民11名、廻戸5名、竹来9名、島津16名、美浦村舟子6名、予科練面会人13名、通行人2名の計69名の民間人も含まれていました。

ご自宅で空襲に遭われた関文子(せきふみこ)さんと戦災復旧作業に携わられた吉田郷里(よしださと)さんとからお話を伺いました。

空襲の記憶

高4回関明氏夫人・文子さん(旧姓櫻井)は、当時島津地区にあった舟島小学校当時は舟島国民学校、現阿見農協舟島支所の地に所在^(注1)の3年生でした。お父様の櫻井富次郎氏は同校の校長を務められており、習字(書道)と音楽とはお父様の授業を受けられたそうです。当時はのお住まいは舟子地区の清明川の左岸(現美浦村舟子)にあり、お父様は自転車、文子さんは歩いて学校に通われました。

1945(昭和20)年に入ると、阿見地区も空襲を受けるようになり、お父様は警戒警報が発令される度に、学校に安置されている御真影(明治維新以降太平洋戦争敗北までの、天皇・皇后の公式の肖像写真。宮内省から各学校に貸与され、校長の責任で厳重に管理されており、儀式の際に飾られた)と教育勅語とを守るために自転車、車で学校に駆け付けられました。文子さんたちも防空演習を受けるようになり、通学途中などで空襲を受けた時には、窪地などのできるだけ低い所に伏せて身を守るようにと教えられていました。

1945年6月10日(日曜日)も早朝から警戒警報が発令されると、お父様は学校に飛んで行かれ、いつものように家にはお母様と文子さんだけになりました(お兄様は大学生でしたが、志願して弘前の連隊に入営していました)。8時頃から阿見方面の爆撃が始まり、爆撃音が聞こえてきました。家にも防空壕が掘ってありましたが、清明川に近いため水が湧いてきてとても使えるものではありませんでした。お母様と近所の家の防空壕に避

難しうかと話していた矢先の9時少し前、突然爆撃を受けました。木原地区にあった海軍の木原送信所^(注2)を狙った爆弾が舟子地区に落下したようです。爆発で辺り一面土埃で真っ暗になり、二人して家の外に出ようとしたが、慌てて玄関の上がりかまちで転んでしまいました。玄関の土間に倒れると、上がり口の扉が倒れてきて、ちょうど倒れた二人を覆うような状態になりました。その時、家の前の桑畑に爆弾が落ちました。爆弾の破片が頭の上を飛び交い、猛烈な爆風で家は傾いてしまいました(破片がめり込んだ箆筒はまだ櫻井家に残っています)。爆風が収まり、ようやく外へ出てみると、桑畑には爆弾の穴が三つ空き、電柱は折れ、電線は至る所で切断されていました。前と後ろの家、清明川対岸の家が燃えていましたが、それぞれ敷地が広がったため、櫻井家は類焼を免れました。対岸の家では1学年下の女の子が亡くなりました。防空演習で教えられた通り、両手で耳を押さえて伏せの姿勢で倒れていました。衣服は焼けてなくなり、遺体はピンク色をしていました。その子のお母さんは、長い間我が子を抱きかかえ、泣き崩れていました。

暫くすると、誰かが「舟島小学校も爆撃され、跡形も無くなった。」と知らせてくれました。二人は、お父様も無事ではないだろうと暗然たる思いでしたが、夕方近くになってお父様が戻られました。お父様は、学校に着いて直ぐ、御真影と教育勅語とを運び出し、学校の防空壕に飛び込んだ瞬間に爆撃を受けられました。後日、お父様は「御真影と教育勅語とを守れたのは勿論だが、日曜

日で子どもたちがいなくなったのが何より良かった。」と語られたそうです。

空襲後、学校が再開され登校した時に爆弾の破片を持って行きました。学校で集めたのです。鉄資源の不足を補うため、爆弾の破片さえも利用しようとしたのだと思います。校舎が全壊したので、近くの養蚕小屋を教室に改造して授業が行われました。低学年と高学年を午前・午後に分けての二部授業になりました。水泳の授業は先生に引率されて舟島格納庫^(注3)に行き、格納庫のドック(船舶まり)で行われました。コンクリートの壁に囲まれてプールのようでした。格納庫も相当の被害を受けていて扉は閉じられ、以前目にしていた水上機を見ることはできませんでした。この格納庫を狙った爆弾が舟島小学校を直撃したわけですが、当時は何も分からず泳いでいました。

※お父様の櫻井富次郎氏(雅号は富園)は戦後まもなく早期退職され、「書窓」書道会を主宰、多くのお弟子さんを育てられました。また茨城大学の講師等も務められ、書道教育に尽力されました。櫻井氏が書道会を始めたのは1947(昭和22)年のある日、GHQから呼び出しを受けたそうです。GHQは書道も軍国主義の復活に繋がると考えていたようです。櫻井氏は種々説明をして、1948年には会報の第三種郵便物認可を得ることができました。

〔2016年2月23日、高21回松井泰寿がお話を伺いました〕

(注1) 舟島小学校

舟島小学校は明治13年島津小学校として創

